



横浜国際高等学校

国際科国際バカロレアコース

進路のしおり

2025



目次

1. IB コースを選択して進学する	2
2. 国内進学について	3
3. 海外進学について	4 - 5
4. 併願について	5 - 6
A) 国内と海外の併願の場合	
B) 異なる国の中の併願の場合	
5. 奨学金について	7
6. 受験合格大学一覧	8 - 9
7. 17 期卒業生から在校生へのメッセージ	10 - 15

1. IB コースを選択して進学する

IB コース生は、海外・国内ともに自身が3年間で培ってきた総合力を駆使して進学していくことになります。日本国内の一般選抜のように学力試験を受けて合否を判定されるような形式ではなく、表現力や論理的思考力などを必要とする選抜方式となります。IB コース生は、多くの課題や論文執筆に取り組み、課外活動で多様な経験を積むことが見込まれます。そのため、自分の活動をポートフォリオとして記録しておくこと出願の準備の際に役立ちます。大学が提示するアドミッションポリシーと生徒自身の希望が合致することが満足度の高い進学に繋がるため、大学・学部研究をしっかりと行うとともに、自己分析を行い自分のこともよく知るよう努めましょう。IB コースでの学びを活かした進路選択ができるよう1年次から準備する必要があります。

3年間の流れ

1年次：大学・学部を知る

1年次から始める大学研究は非常に重要です。それぞれの大学の特色（強み）を理解していくためには資料や書籍の読み込みも必要なため、時間がかかります。大学選びをスムーズに行うためにも1年次でのリサーチはしっかり行うべきです。自分がやりたいことがまだ見つけられていない場合も、いろいろな大学の情報に触れるにつれて自分の興味の方向性に気づくかもしれません。国内ならオープンキャンパスに参加するのがよいでしょう。海外ならオンラインでウェビナーに参加してみるとよいでしょう。海外の大学情報も大学のホームページより入手可能ですので、幅広く検索してください。また、9月から11月ごろに各国の大使館などが実施する留学フェアに参加し、情報収集をしましょう。フェアでは大学の入試担当の方や卒業生と話ができるため、インターネットではわからない情報も収集できます。まずは、大学・学部を知ることから始めましょう。

2年次：大学選択の準備

大学のことを知ると、その大学に合格するために、自分が何をすべきかが見えてきます。例えば、IELTSで6.5が必須条件の場合、あとどれくらいの積み重ねが必要で、いつまでにそのスコアに到達しないといけないかが明確になります。受験可能な時期や回数をよく検討して、出願までの計画を立てることが大事です。3年次になる前に、出願大学を絞り込み、入試要項を取り寄せる手配や、海外の場合、アドミッションがいつオープンするかを随時ホームページで確認しましょう。3年次になるまでに、過年度の出願スケジュールで3年次の自分の出願計画を立てることで余裕を持った準備をしましょう。

3年次：出願

おおよその出願計画を立てた上で、実際の入試要項やホームページを確認して、出願計画との差異を確認してください。志望理由書やエッセイ、また推薦書を仕上げる計画が重要になります。同時に、2年間の学校生活を振り返りながら、自己分析をしてください。自分は将来どのように生きていきたいか、どのように社会と関わり社会に貢献したいのか、自分の情熱は何に向かっているのかなど10年先20年先の自分を想像してください。そのためには、まず大学で何を学び、自分のどんな強みを伸ばしたいか、さらに、それを学ぶために自分は今それに適した資質をどの程度持ち合わせているのかなど時間をかけてじっくり自分と向き合ってください。徐々に整理され、本当にやりたいこと、行きたい大学もはっきりしてくるでしょう。志望理由書や出願エッセイ等を仕上げ、推敲を繰り返して、完成させます。出願のプロセスは、非常に時間がかかり、精神的にも追い込まれることもあるかもしれません。焦らずに丁寧に取り組みましょう。

2. 国内進学について

IB コースを選択して国内進学する場合、次のような選抜方法があります。

- A) 国際バカロレア特別入試
- B) 総合型選抜
- C) その他の推薦入試
- D) 指定校推薦
- E) 一般選抜

A) 国際バカロレア特別入試

全国で 78 校の大学で IB スコアを活用した入試を行っています。(文部科学省 IB 教育推進コンソーシアム事務局調べ・2024 年 1 月時点 <https://ibconsortium.mext.go.jp/about-ib/entrance-exam/>) 選抜方法は大学によって異なりますが、多くの大学で、EE や TOK での学びの成果をまとめたレポートの提出や CAS の活動報告が求められます。大学によっては、求める IB スコアの出願要件を満たす必要があるため注意が必要です。また、国公立であっても併願可能な入試方式として IB 特別入試を設けている大学もあり、国公立も目指しやすくなっています。

B) 総合型選抜

志望理由書だけでなく、その他の提出する書類が多いことや、面接等も実施されることがあるため、入念な準備が求められます。

C) その他の推薦入試

東京外国語大学の「帰国生等特別推薦選抜」のように、国際バカロレアコースでディプロマ資格取得見込みであれば、「帰国生」として出願資格を満たすことができる入試も存在します。志望理由書だけでなく、活動報告書等の提出がある場合や、面接も実施されることがあります。

D) 指定校推薦

本校の IB コース生のみを対象とした推薦の依頼を受けることもあります。大学側から提示される推薦基準に加え、本校の校内推薦基準を満たす必要があります。

E) 一般選抜

日本の教育課程と国際バカロレアのカリキュラムは異なるため、一般選抜を選択する場合は、早い段階からの入念な準備が必要です。

上記 A、B、C の推薦型が IB コース生としての学びをアピールすることができる選抜方法です。3 年間で培った資質、スキルを活かしていきましょう。国内の IB 入試は大学によって異なります。大学側の制度が確立していないこともあるので、学校、大学と連携して対応する必要があります。

なお、卒業後、いわゆる「浪人生」として、IB スコアを利用して受験する場合には、再受験をしない限り、一度取得したスコアは更新されないことに留意する必要があります。

3. 海外進学について

世界中の大学への進学が可能と言えます。海外の大学に出願するプロセスは国によって異なり、また大学によっても異なります。よく情報を収集し、適切に出願していきます。

アメリカ、イギリス、オーストラリア、カナダなどの英語圏の国々が主要な進学先になります。ヨーロッパなど第一言語が英語以外の国への進学の場合、現地の言語力が求められることがあります。英語プログラムを実施する大学・学部の場合、英語資格があれば出願を認めるというところもあります。

A) アメリカ

学力、課外活動、資質など総合的かつ、多面的に判断されます。面接がある場合もあります。大学によって出願エッセイ・推薦書が複数枚になります。高校での活動や成長、人物像が、容易に想像できるように執筆します。一般的な出願方法は Common Application と呼ばれるシステムがありますが、州によって独自のシステムを導入している場合があるため、志望大学の出願方法をよく確認する必要があります。

B) イギリス

出願する学部に関する課外活動や、その分野を学ぶための資質が評価されます。アメリカと異なり3年間で学位取得が可能のため、専門分野を学ぶ準備がどれだけできているかをアピールすることがポイントです。また、UCAS というシステムを通じて5校に同時に出願するため、特定の大学に対する志望理由よりも、学部の志望理由とともに、イギリスを選択する理由を述べるのが一般的です。

C) オーストラリア

基本的には IB スコアで合否が決まります。出願と同時に奨学金の申請が行われます。出願は、「オーストラリア留学センター」等、オーストラリア政府認定の公式出願窓口を通して行うのが一般的です。公認エージェントの無料相談を早めに受けましょう。

D) カナダ

大学により出願書類は異なります。IB スコアや成績証明書等の書類提出のみの場合もあれば、複数枚のエッセイ提出や面接が行われることもあります。アメリカ同様、Early と呼ばれる早期出願の制度があります。また、州によって出願システムが異なるため、州を跨いで複数の大学に出願する場合には注意が必要です。

E) ヨーロッパ（イギリス以外）

CV (Curriculum Vitae) やエッセイの提出が求められることがあります。CV は履歴書に近く、アルバイトなどの経験も記載します。大学によっては、数学などの試験が別途実施されます。

非英語圏であっても、学部進学において英語プログラムを開講している大学を選択することで、現地の公用語を身に付けていなくても進学は可能ですが、生活する上で現地の言語習得は必要不可欠になるでしょう。

海外大学へ出願する場合は、卒業するまでに進路が決定しない場合もあります。また、合否の結果通知が早い場合もあれば、最終的な通知期限ぎりぎりの場合もあります。焦らず、信じて待ちましょう。

海外大学に出願する場合の補足として、次の2点をあげます。

1. 英語の外部試験

大学は留学生に対して、一定の英語力を証明することを求めます。その英語力に達していれば、直接大学に入学することが可能ですが、English Bの履修者はTOEFLやIELTSのような外部試験のスコアにおいて、必要スコアに達していない場合、ファウンデーションコースと呼ばれる大学準備コースで英語力を伸ばす必要があります。英語に不安がある生徒にとって、ファウンデーションコースは安心して海外に挑戦できる存在となります。ただし、1年程度を必要とするため、イギリス、オーストラリアともに、本来3年で卒業が可能ですが、卒業までに4年程度必要となる可能性が高くなります。

2. ギャップイヤー (Gap Year) の活用

海外の大学では一般的な制度として、ギャップイヤー (Gap Year) の活用を検討する場合があります。これは、大学が入学前や在学中に休学することを許可するもので、それによって得られた時間はインターンシップ、ボランティア、留学など、さまざまな経験を積むために活用されます。大学から合格をもらったのち、その手続きを行うこととなります。検討する場合は、自分がなぜ休学をするのか、目的意識をもち、より充実した大学生活を送れるようにしましょう。

4. 併願について

併願を検討する際に、最も留意すべき点は、スケジュール管理です。最大で以下の4つのスケジュールが同時進行で行われることを意識しましょう。出願する大学、国をどのように計画するかが成功のカギとなります。

1. 国内

基本的に国内の出願は9月ごろを皮切りに11月ごろまでがピークになります。大学によって、2月ごろまで出願がある場合もあります。

2. 海外

国によって異なりますが、翌年の秋入学を目指す場合、10月ごろから始まり、1月ごろまでがピークになります。例えば、国ごとの締め切りの目安は、アメリカの場合、早い出願は10月、通常は1月ごろ、イギリスのケンブリッジ大学・オックスフォード大学は10月、それ以外の大学は1月、オーストラリアは1月ごろ、カナダは最終的な出願が1月ごろです。

3. DP

プログラム(学校での課題等)のスケジュールについて、4・5月ごろにほぼすべての科目で内部評価(IA)が行われます(詳細はDPハンドブック Assessment Calendarをご覧ください)。その後、主に国内の出願に活用されるMOCK 1が実施されます。また、9月には海外出願でも活用される重要なMOCK 2が実施されます。11月にはいよいよ最終試験になります。

4. 奨学金

日本学生支援機構(JASSO)の海外進学希望者向けの奨学金の申し込みを行う場合、9月から10月に申し込みを行います。具体的な留学の目的、将来の展望などエッセイが求められます。また、1次を通過した場合は面接も行われます。その他、国内で申請をする奨学金も同じような時期に選考が行われることが多いので注意しましょう。

A) 国内と海外の併願の場合

表1のように具体的な大学を少し提示して説明します。4月には、自己分析と大学・学部研究を本格化させていきます。一貫した学部への志望理由と将来の展望を固めていくことで、出願の締め切りが早い大学から順次エッセイの初稿を完成させると同時に、教員に依頼する推薦書の内容を検討する必要があります。

それぞれの締め切りに出願書類を間に合わせるためには、少なくとも初稿を2か月前までには仕上げることをお勧めします。しかし、イギリスは1月下旬が締め切りのため、2か月前は最終試験中になりますので、やはり夏には初稿を書いておくと安心だと思います。

エッセイと推薦書の執筆と同時に重要なのが、MOCK 1と2です。例えば横浜市立大学に出願する場合、現行のスケジュールではMOCK 1を活用することになります。東京外国語大学、上智大学、イギリスの大学はMOCK 2を活用します。つまり、両方のMOCKが出願に大きく影響するという事は、受験のピークが長いということになり、精神的体力的な負担も大きくなります。どちらのMOCKに重点を置くかということも、出願校を決める際のポイントと言えるでしょう。

MOCKで算出される見込み点によって出願できる大学が変わる可能性があります。自分の目指す大学のスコアに見込み点が届くように学習に励みましょう。

表1 国内とイギリスの併願（ケンブリッジ・オックスフォード大学を除く）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
横浜市立大学			エッセイ初稿			出願〆切					
東京外国語大学					エッセイ初稿			出願〆切			
上智大学							エッセイ初稿			出願〆切	
UK					エッセイ初稿					出願〆切	
DP	IA	IA	MOCK 1			MOCK 2		最終試験			
JASSO（海外向け）				エッセイ初稿			申込〆切				

B) 異なる国の間の併願の場合

出願の準備における時間と労力という点において、複雑さは異なりますが、おおよそ、①アメリカ、②イギリス/カナダ/ヨーロッパ、③オーストラリアの3つのタイプに分けられます。①アメリカと②イギリス/カナダ/ヨーロッパの併願より、①アメリカと③オーストラリアの併願は比較的容易であると言えます。しかし、出願の複雑さよりも、自身が何をどこで学びたいかということが一番大事にして、出願先は検討すべきです。

表2はアメリカ(Common Application 活用による出願)の早期出願(Early Decision)、通常出願(Regular Decision)、イギリスの出願(ケンブリッジ・オックスフォード大学を除く)の出願締め切りを示します。アメリカの早期出願の場合、専願の扱いになりますので(Early Actionはその限りではない)、出願には注意が必要です。アメリカの場合、出願する大学によって提出書類はかなり異なります。早期で決まらない場合に備えて、通常出願とイギリスの準備を同時進行で行います。表2のように、夏に初稿を書くことになるので、それまでに自己分析等を進めることをお勧めします。

表2 アメリカ(Common Application 活用)とイギリス(ケンブリッジ・オックスフォード大学を除く)の併願

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
US早期出願					エッセイ初稿			出願〆切			
US通常出願							エッセイ初稿			出願〆切	
UK					エッセイ初稿					出願〆切	
DP	IA	IA	MOCK 1			MOCK 2		最終試験			
JASSO（海外向け）				エッセイ初稿			申込〆切				

5. 奨学金について

海外進学の際に、最も多く聞かれる質問の一つに奨学金があります。一般的に国内大学に進学する場合、奨学金は給付型（返済不要）と貸与型（返済必要）に分かれますが、海外進学において奨学金(scholarship)は返済不要のものを指します。貸与型の場合は学費援助（Financial aid）と呼ばれ区別されます。

海外進学者向けの奨学金は大きく分けて2種類あります。

- ① 国内で申し込む奨学金
- ② 海外で申し込む奨学金

- ① 国内で申し込む奨学金は、日本学生支援機構（JASSO）の国費による支援をはじめ、柳井正財団、公益財団法人グルー・バンクロフト基金、リクルートなどがあります。しかし、海外進学者向けの奨学金の競争率は高く、非常に狭き門になっています。
- ② 海外で申し込む奨学金は、合格後に大学から提供される奨学金も含まれます。渡航前に、学費の免除率が提示されることもあります。イギリスは、初年度のみ奨学金の場合が多いですが、アメリカの場合は、在学中に成績優秀者に奨学金が出るケースもあります。大学ごと学部ごとに奨学金の内容も異なるため、大学選びの際に、留学生向けの奨学金の有無、学部ごとの奨学金の有無等は、大学のアドミッションに問い合わせましょう。

さらに、出願の際に、奨学金を申し込む場合には、提出書類が異なる場合があります。出願の際に、よく確認し、奨学金に申し込めるようにしてください。アメリカの場合は、奨学金を希望する場合としない場合で、可否に影響する大学もあります。ポリシーをよく確認しましょう。

奨学金以外にも、寮費などを免除してもらえる制度がある大学もあります。例えば、寮の管理人として、寮生をまとめるリーダーを引き受けると寮費の一部免除等がある大学があります。事前に、経済的な負担軽減について調べることで、海外進学における経済的ハードルをクリアできるかもしれません。

奨学金は、自分に該当するものを探し続け、アンテナを張っておくことが大事です。国内で申し込む奨学金だけでなく、進学後、大学で申し込む際にも、情報収集を惜しまないようにしましょう。

(参考)

海外留学支援サイト. (n. d.). 海外留学支援サイト. Retrieved June 28, 2024, from <https://ryugaku.jasso.go.jp/scholarship/>

6. 受験・合格大学一覧（17期生 IB コース生 令和7年4月26日現在）※五十音順

国内		17期						
		指定校 推薦	IBスコアを活用し た選抜		一般選抜		帰国等その他	
			合格者	受験者	合格者	受験者	合格者	受験者
国立	岡山大		1	1				
	鹿児島大		1	1				
	筑波大		1	0				
	東北大		1	0				
	北海道大		2	0				
公立	国際教養大		1	1			1	0
	横浜市立大		4	3				
私立	青山学院大						1	1
	神田外語大						1	0
	慶應大				2	1		
	國學院大						1	0
	国際基督教大		2	0				
	芝浦工大		1	1				
	上智大		4	2				
	成城大						1	0
	中央大						1	0
	帝京大						1	1
	東京電機大				1	0		
	東京都市大		1	1				
	東洋大				1	1	1	0
	法政大		3	3				
明治学院大						1	1	
立教大						4	1	
早稲田大		3	2			4	1	
国内 合計			25	15	4	2	17	5

海外	大学名	IBスコアを活用した選抜		その他	
		受験者	合格者	受験者	合格者
アメリカ	Temple University, Japan Campus			1	1
	University of Hawaii at Hilo	1	1		
	University of Hawaii at Manoa	1	0		
	University of Texas at Austin	1	0		
イギリス	Queen Mary University of London	1	1		
	The University of Edinburgh	1	0		
	The University of Manchester	1	1		
	University of Huddersfield	1	1		
オーストラリア	Macquarie University			1	1
	Monash University			1	1
	Queensland University of Technology	1	1		
	The University of Sydney	1	1		
	University of Melbourne	1	1		
	University of the Sunshine Coast			1	1
	The University of Western Australia			1	1
カナダ	The University of British Columbia	1	1		
	University of Toronto	1	1		
マレーシア	Taylor's University	1	1		
オランダ	Amsterdam University College	1	1		
	Erasmus University College	1	1		
	HZ University of Applied Sciences	1	1		
	Tilburg University	2	2		
	University College Tilburg	1	1		
韓国	Seoul National University	1	0		
	Yonsei University	1	0		
ハンガリー	University of Veterinary Medicine, Budapest			1	1
海外 合計		21	16	6	6

7. 17 期卒業生から在校生へのメッセージ

(卒業生の意思を尊重し、できるだけ原文のまま掲載しています。内容には個人の主観・感想が含まれます)

【国内】

○ 国際教養大学 国際教養学部

① 志望大学決定までのプロセス、決定の上で役に立ったこと、参考にしたこと

私は、元々海外の大学に進学したいと考えていました。海外で、英語の環境に身を置き勉強したいと考えていたためです。一方で、私は将来ビジネス業界で働くことを目標にしていたため、大学院で MBA という資格を取ることを将来設計に入れており、これは海外の大学院で取得する必要がありました。そのため、海外の大学院に行くための費用を大学に行く前から考慮する必要があり、海外の大学で学ぶという選択肢に、日本の大学という候補が上がりました。そのうえで、大学をオーストラリアと日本の大学に絞って、コストパフォーマンスと自分が求める大学での学びを比較して最終決定を行いました。決定の上で役に立ったことは、「日本の大学だから」と早急に選択肢から除外するのではなく、日本の大学で提供されている学びが、どれほど海外の大学で得られる学びと異なり、それがもろもろの費用差額に釣り合っているか否か、という指標を持つことが効果的でした。

② 受験計画を立てる上で意識したこと

私は計画を長期で立てる事が出来ていなかったと思います。日本の大学は、出願準備をできれば二年生から行う事がより良いと思います。一方で、海外の大学を志望する場合（特に IB 生）は、そこまで急ぐことはないと思います。Final 後、三年生の 11 月以降でも余裕で間に合いますが、その場合でも必要な資格が足りているかなど細かく調べる事はなるべく早くする方がいいと思います。

③ 自己分析のプロセスで大事なこと

私はビジネスを行いたいと考えていながら、教育環境など他の分野に興味を持ち、大学ではリベラルアーツを専攻しています。そのため、自分が真に興味を持ち、大学で何を学びたいのか、といった自己分析は難しかったほうだと感じています。そのような場合は、まず自分の計画や意思を簡素化して文字に起こすことが良いと思います。それを担任や他の先生、親や友達など他人の視点を何度も通す事で、自分が気づかなかった分析を行う事が出来ると思います。自己分析は自分で行うものと思われがちですが、私の場合やむしろ他の人の視点を通した方がより明確な分析を得る事が出来ました。

④ 入学してからの活動で進路実現のためにやっておいたほうが良いこと

友達やクラスメートがやろうとしている課外活動には、積極的に参加したほうが良いです！最初に興味がなくてもやってみると案外面白い、と気づくことが多くありました。また、自分が少しでも興味のある活動だった場合は、すぐに参加する事を進めます。環境保全などはどこでも求められるトピックなので、何にも興味がない場合はメジャーな所を攻めるのも一つだと思います。さらに、ネームバリューをとにかく得たい、という場合は、公的に認められている seminar や大会に出る事もあります。とにかく、活動をすればするほど戦える駒は増えるので、臆せず挑戦するべきだと思います。これらの活動は、基本的に勉強が忙しくなる三年生は極力避けたほうが良いです。活動をしていて忙しくなると悩むことも多くなり、不

満がたまると思いますが、それも経験で受験では「困難だった点と乗り越えた例」の事例で使えるので重要です！活動では悩んで苦勞するくらいが進路実現には向いている事を意識してください。

⑤ IB 入試、総合型選抜など、国内での IB 生向けの進路情報収集

インターネットで大幅に IB 入試などで検索をかけ、興味のある大学があった場合はより深く調べる、というのがオーソドックスだと思います。注意点は、各大学の IB 入試が開催されている学部が、限定されている場合が多いという事です。私はあまり調べなかったのですが、多くの大学で迷っている場合は、かなりの時間を情報収集に費やすという覚悟を持った方がいいです。周りはものすごく時間を割いていました。

⑥ 提出書類準備（志望理由書、TOK、EE、CAS など）

私の大学への出願スタイルは、「グローバルワークショップ」というワークショップを通じた選考で IB 入試ではありませんでした。そのため、書類を多く作る必要はなく、また EE や TOK といった IB 独自の提出物を求められる事はありませんでした。その分、自分の将来設計について記入する志望理由書で、一次の足切りがあったので、志望理由書はとてつウエイトが大きかったです。これについては、早めに担任と一緒に書き始めるに越したことはないです。

⑦ 面接対策

面接対策では、どのような問題が傾向としてあるか、知っておくことが大切です。そのため、同じ受験をした先輩に DM を通じて質問し、情報収集しました。面接で重要なのは二つで、大学の求める生徒像と自分を重ねること、情熱です。自分が高校時代に行ってきた課外活動を基に、大学の求める生徒像を自身が備えていることを幾度となくアピールすることが大切です。リーダーシップ、国際性、社会問題への熱意など各大学の求めるテーマは変わるので、多様なテーマに対応できるほどの課外活動への参加や学びを高校生活で行う必要があり、CAS、TOK、EE は絶好の機会なのでしっかり行った方がいいです。そして、何より情熱が必要です。台本を暗記するのではなく、自分の心から、ということですが、これは私もぎりぎりまで理解できなかつたです。先生や周りとの実践練習を通じて得られるまでやってみるのがいいかもしれません。

○ 早稲田大学 国際教養学部 (SILS)

① 志望大学決定までのプロセス、決定の上で役に立ったこと、参考にしたこと

私は、まず国際教養学部で英語を学びながら、多岐にわたる分野に触れられることを大学決定における前提としていました。特に将来の展望としては環境問題をビジネスで解決したく、その問題に強い関心を抱いていることから、他大学では理系科目がレクチャーとしてはあるもののコースとしては設置されていない場合が多い中、SILS では、7つのクラスター（科目群）が明確に提示されている点に注目しました。

その中でも「Life, Environment, Matter and Information（生命・環境・物質・情報科学）」は、私の関心領域に最も適合し、このことが SILS を第一志望とする決定的な理由の一つとなりました。さらに、海外の大学に直接進学するのではなく、留学という形で海外の学びも経験したいと考えており、SILS のカリキュラムにおいて留学が義務つけられている点にも大きな魅力を感じました。

進路決定にあたっては、大学情報の収集に自身のみ力には限界を感じたため、大学受験を専門としている塾が開催しているイベントに参加することが非常に有益でした。また、オープンキャンパスに参加し、

多様な資料を収集するとともに、模擬講義を受けたり、大学の雰囲気を実際に体感することで、志望理由をより明確化することができたと考えております。

② 受験計画を立てる上で意識したこと

受験計画を立てる上で意識したのは、受験準備や志望理由書の執筆、先生からのフィードバックを余裕を持って進められるようにすることでした。学校の先生や塾の先生、両親など、多くの人に文章を添削してもらうため、Mock2と重ならないよう、早い段階で自分の考えをまとめ、何度も確認してもらえる時間を確保するよう努めました。しかし、余裕を持った計画を立てていたにもかかわらず、実際には時間が足りないと感じる場面も多々ありました。

③ 自己分析のプロセスで大事なこと

自己分析は、私が受験で最も苦勞した点でした。最初は英語教師になりたいという思いから教育に重点を置きましたが、社会問題にも目を向けたほうが良いのではないかと考え、無理に貧困問題などを取り入れようとしていました。その結果、自分が本当にやりたいことを見失い、行き詰まってしまいました。このような経験を経て、一から考え直す必要があることに気づきました。

そこで、大学側が何を求めているかを考える前に、自分自身が将来どのようなことをしたいのかを明確にすることが重要だと痛感しました。最終的に、私は環境問題に強い関心を持ち、教育分野ではなくビジネスの視点から取り組みたいのだと気づきました。特に、ビジネス戦略を考えたり、多様な社員と意見を交わしたりすることに興味を持っていることを自覚しました。私はもともと目標を一つに絞り込んでしまいがちで、その結果、自分自身に対する固定観念を持ちやすい傾向があります。この固定観念が客観的視点を持つ妨げになるので、まずは自分の興味や価値観を見直すことが、自己分析のプロセスで大切であると感じました。

また、長所や短所を書くことに苦勞する人もいないのではないかと思います。しかし、私のように国内大学でIB 枠以外の入試を受ける場合、IB 生としての特長を活かし、IB で培った思考力を大きくアピールすることを強くおすすめします。私自身、SILSの「国外選考」(※)で書いた essay では、“Please explain the unique contribution you will make to SILS if your application is accepted.”という質問をされました。この問いは直接的に長所を聞くものではありませんが、「unique」という言葉から、IB 生としての経験や特長を活かすことが求められていると感じました。そこで、私がおもつ理論的かつ概念的な思考力、そして議論を促進できる点について述べました。このように、IB で得た独自の強みを具体的に伝えることは、自分自身の価値をしっかりと相手に伝える有効な手段となることを知っていただきたいです。

(※) 海外の高校で学ぶ生徒などを対象とした入試。IB 生は国内の高校に在学していても出願することができます。

④ 入学してからの活動で進路実現のためにやっておいたほうが良いこと

IB 生は一般入試を受けることはほとんどなく、多くの方が総合型選抜で受験すると思うのですが、そのためにはIB スコアが非常に重要となります。特に国内大学を受ける場合、時期的に模擬試験(mock 1)での predicted score を用いるため、模擬試験だからといって気を抜かず、本番と同じように真剣に取り

組むべきです。これに備えるためには、常に復習をしたり、ノートをまとめたり、過去問をたくさん解いてテストに慣れることが必要です。

また、総合型選抜で有利になるためには課外活動も重要です。IB生はCASで課外活動に取り組んでいると思いますが、大学受験に有利となるような活動を調べておくことが大切です。できれば将来の夢につながる活動の方が一貫性があると思いますが、私のように、将来の進路が決まっていなくても課外活動を通じて自分の将来の夢が定まっていくようになることもあるので、興味がある活動があれば手に取ってみることがとても大事です！

⑧在校生へのメッセージ

IB生の皆さん、特に国内の大学を受験する方は、Mock 2やファイナルといった大事な時期が重なるため、本当に大変な時期を過ごすことと思います。ですが、無理のない範囲で両立できるよう、今からできることを少しずつ考えて取り組んでください。きっと、皆さんならIBも大学受験も乗り越えられます！応援しています！

【国内→海外】

- 早稲田大学 国際教養学部→ The University of British Columbia (The Bachelor of Arts)
(Gap yearを利用して、早稲田大学に進学。後、UBCに入学予定)
- ① 志望大学決定までのプロセス、決定の上で役に立ったこと、参考にしたこと
志望大学は親戚の話や友達と立ち寄った受験フェアで目に入った大学の中から絞るといふかなり雑な決め方をしていました。私は3年生の6月半ばまで志望大学も定まってない、そもそも国内大学にするのかカナダの大学にするのかも決めていない状態でした。そんな中で、親や先生に日本と海外両方受験して最終的に合格したところから決めるのはどうかと提案され、第一志望校を決めずに大学受験に臨むことを決めました。日本か海外かは早めに決めるべきと言われることもありますが、私は自分の受験生活を振り返って、両方取るのもアリだなと考えています。悩んだら友達、家族、先生に相談して意見をもらうのも大事です！
- ② 受験計画を立てる上で意識したこと
国内大学と海外大学は出願時期がずれていたため両立は楽でした。一番大変だったのは国内大学とIBの両立です。国内大学は出願から入試までmockとfinalと被っているしfinalの成績はカナダの大学出願で使うのでどちらも手を抜けなくてなかなか追い詰められていました。だからせめて国内大学の負担を減らそうと、志望校選びの時点なるべく選考の負荷が少ないところや出願・入試スケジュールがずれるように意識していました。あとは、6月に先輩たちの進路講演会を聞いてからいよいよ勉強しなきゃとなって次の日からfinal終了日までToDoリストとスケジュールを毎日必ず作っていました。その日やるべきことを明確化すると「やるが多すぎて何も手につかない！」って状態から抜け出せるので効率的に活動できました。
- ③ 自己分析のプロセスで大事なこと

毎日日記を書くと後で振り返った時に自分がどういう考え方をしている人間なのか自分のことながら客観的に見られるのでおすすめです。私の場合は、たまたま友達とオンラインで日記を共有してお互いの日記にコメントし合っていたので、そこで他者から見る自分を知ることもありました。まっさらな紙の真ん中に「自分とは？」って書いて思いつく今までの経験やそこでの学びなどをひたすら書いていく方法もよくやっていました。

④ 入学してからの活動で進路実現のためにやっておいたほうがいいこと

- 1 年生：遊ぶ！けどテスト前はちゃんと勉強して成績を取っておくと安心材料になります（推薦や総合型のためにも）。
- 2 年生：遊ぶ！けど成績は取る。自己アピールに使える大きめの課外活動をひとつはしておくことをおすすめします。2 年生中に必要な英語資格やスコアなどを取得しておくとも楽です。
- 3 年生：メリハリつけて遊ぶ！IA や勉強で毎日忙しいと思いますが、自分の趣味や好きなことを諦めないことが大切だと思います。Final に向けて朝型人間になり、睡眠時間は最低 6 時間確保することを強くおすすめします（私は 23 時就寝 5 時起床をルーティンにしていました）。

⑤ 面接対策

国公立大学では面接がありましたが、IB 入試なのにもかかわらず、面接官たちは想像以上に IB について何も知りません。普段私たちが使っている言い回しとは別の言い方で質問してきたりしてきます。なので丁寧な説明を心がけ、略称は使わないことをおすすめします。

志望理由の他には IB についての質問が多く、将来の目標などに関する深掘りは少なかったのですが、自分の EE と TOK でやったことと CAS でのアピールポイントなどを滑らかに話せるようになっておくと面接時に思い出しながら話すことができなくなると思います（特に EE なんて受験の頃にはもう何を書いたか忘れかけているので）。あとは途中から面接を英語に切り替えてきたこともあったので英語でも受け答えができるようにしておくといいと思います。

【海外】

○ Erasmus University Rotterdam (Liberal Arts & Sciences)

① 大学・学部決定までのプロセス

僕は、勉強する内容も勿論ながら、大学(特に学部教育)に行く本質的な価値はむしろその大学の中で得られる新たな人脈や自分の価値観の変化にあると考えていた。今まで海外経験がなく、価値観の大きな変動を体験したことがなかったゆえ、異国の地で住むという経験を若いうちに積みたいという思いが強かったので、最初から海外一本で出願することに決めていた。ただ、英連邦やアメリカは学費がべらぼうに高かったこと、アメリカの社会情勢に不安があったことからそれらは最初に候補から外れた。留学先としてはアジアも考えたが、地球の反対側に行ってこそ留学の意味があると考えていたので、気候や社会風土を考慮してほぼヨーロッパ一択になった。オランダは大学外でも英語がよく通じることと、比較的安い学費、充実したリベラルアーツ教育を通して学べる人が多いと思い出願先に選択した。1 年生の頃からアメリ

カ、アジアなど様々な留学先を検討し、2年生の夏休み前にはオランダに出願することを決めて、夏休みにキャンパスビジットに行った。

② 1,2年でやっておくといいこと

結構高校の3年間は短いので、早めに腹を括ること。結局その大学に行くのは3、4年間だから、個人的には行きたいところを早く絞ってしまってリサーチを進めておくと、ファイナルや出願の時期に焦らなくてすむ。1年生のうちから進路を検討して、僕みたいに2年生の夏休み前には大体見当がついていると出願ラッシュの時期は結構余裕ができると思う。時間的、金銭的余裕がありそうならキャンパスビジットに行くのもとてもおすすめ。僕はそこで1学年上の友達ができ、自分の出願の時に色々聞けてすごく助かったりした。あとは、コツコツエビデンスを積み重ねておくこと。Managebac以外にも自分で課外活動をまとめるポートフォリオを簡単でいいから作っておくと、出願でエッセイを書くときに自分が何を重視してきたのが手に取るようにわかるからすごく便利。

③ 進路実現のためにやっておいた方がいいこと

海外に行きたい気持ちが少しでもあれば、最悪ノ一勉でもいいから早めに英語試験を受けると良いと思う。僕は2年生のうちに「受けちゃえ！」みたいな気持ちで2回受験した。受験を決めた時はそんなに深く考えてなかったけど、3年生になるとIELTSのことを気にしている暇がなかったので、結局2年生の時に受験しておいたものが出願に使えて助かった。1年生のうちに受けると大学の英語資格2年ルールに引っかけたりするから、DP始まってから受けるのがおすすめ。あとは、自分の行きたい大学の解像度を高めておくこと。DPの勉強に飽きたら大学の紹介動画を見たり、気になることは大学にメールを送るとフレンドリーに返してくれることも多い。行きたい大学の解像度が高くなると、受験の時のエッセイもよりパーソナルな経験をもとに深い内容で書けるから、admissions officerにも好印象を与えられると思う。

④ 奨学金などについて/他に伝えたいこと

- Finalとかぶっていて本当に大変だと思うけど、海外受験勢はダメ元でもいいからJASSO奨学金を受けた方がいいと思う。(財団系と違ってトップ校でなくても下りる可能性がある)
- 大学関連でわからないことがあれば、しつこくAdmissionsにメールを送ること！自分は大学側の曖昧な返事に惑わされて、出願できたはずのEarlyの期限を逃してしまった。
- 要求IBスコアが低くても、知名度が高く名声のある大学もあるので、そういう穴場を探しておく心理的な余裕になる。
- クラスメイトでも先輩/後輩でもネットでもいいから、自分と似た境遇の仲間を見つけて、助け合うこと。同じ道を歩む人は確実に少ないけど、でも絶対にあなたは一人じゃないよ！

MEMO

MEMO

MEMO

